

○議長（前原英石君） 2番 古川元規君。

○2番（古川元規君） 2番古川元規です。私からは、通告どおり、異常気象に伴う農業者支援につきまして、ご質問をさせていただきたいと思います。

昨今、異常気象が恒常化をしております。毎年のように、今年は異常だなど口をそろえて言っているなというふうに感じております。本年も、富山県として初の線状降水帯が発生するなど、舟橋村におきましても、豪雨があったかと思えば、また一方で観測史上最多の猛暑日を記録。今日も大変暑い、もしかしたら更新し続けているのかなというふうに思っております。

肥料や燃料などの価格高騰の影響も大きい中、農業者は、さらに大雨と日照り、それによって大打撃を受けて収量は激減し、またインボイス制度の導入に伴って、スーパーなどの小売店の料率の変更なども迫られており、農作物の生産、販売においてトリプルパンチを受けている状態であります。

また、連続する猛暑日によって、舟橋村農業の主力とも言える稲についても、例年よりも生育が1週間以上早まっております。一般質問通告日の9月5日現在、主力コシヒカリの刈取り時期となってきておりますが、高温障害によって白未熟粒や胴割れ米の発生増加が危惧されており、先般9月7日には、砺波市の検査において1等米がゼロであったというショッキングな報道もなされておりました。

もちろん、今後の動向によりまして、米の出来については現時点ではまだはっきりとしておりませんが、多くの農業者が大きな被害を被る可能性は決して低くはないと言えらると思っております。

また、野菜につきましても、大雨によって腐った物、また逆にその後の日照りによって枯れてしまったり、収量を落とした物が多くあります。

野菜は米に比べると安定して作るのが難しく、労力もかかるため、ハートかぼちゃ生産者はなかなか増えないという現状があります。一方、舟橋村のハートかぼちゃを使ったスイーツが放生若狭屋さんで採用されるなど、舟橋村の野菜もようやく日の目を浴びてきたところであります。しかし、本年のような百年に一度クラスの異常気象で、その芽をつぶさないようにしなければならないというふうに感じます。

このような災害クラスの猛暑に際して、農業者を支え、守るという村の姿勢が試されていると思っております。異常気象による被害状況次第では、12月に補正をしてでも、迅速に被害を受けた農業者へ何らかの支援を検討すべきであると考えますが、村長のお考え

をお聞きしたいと思います。

○議長（前原英石君） 村長 渡辺 光君。

○村長（渡辺 光君） 2番古川議員のご質問に答弁をさせていただきます。

本年は大変暑い夏となりました。猛暑日が28日間を記録し、富山市においては8月の平均気温が30度を超える猛暑となりました。あわせて、降水量も例年と比べ著しく少なく、県内において渇水状態にある河川や農業用水の不足の報道も多くあったかと存じます。自然を相手に営む農業者の方々におかれましては、ご労苦の絶えない夏であったものと思います。

さて、議員のご指摘の被害支援についてですが、現在農業共済の収入保険制度に加入しておられる農家の方々は、猛暑被害による減収分の大部分が補填されますので、そういった方々は、ある程度の被害は回避できるものと考えておりますが、そういった補填を享受することができない農家の方々も含め、どこまでどうすべきかなどは各農産品の収穫状況の把握次第、早急に検討したいと考えております。

なお、現在聞いております内容では、わせ品種のてんたかくの収量については平年よりやや少なく、品質については胴割れが多いと。そして、9月上旬に収穫したコシヒカリについても収量が少なく、白未熟粒が目立つ状況であり、今後は1等米比率など詳細な情報が入ってまいりますので、さらに注視をしていきたいと考えております。

また、当村の特産品のハートかぼちゃにおいては、JA、直売所等への出荷量が大幅に減少しております。この事態については、水害に起因していることもありますが、高齢化により、カボチャ栽培をやめられた農家さんが2軒おられます。それに伴っての面積の減少が要因であると考えておりますので、その要因の見極めを行う必要があると感じております。

そのほか、ネギについては、高温の影響により、生育に遅れ、枯れが生じております。収量においては多少の減が見込まれますが、そこまで大きな影響が出ないと確認を取っております。

総じてとなりますが、今夏の猛暑による各農産品の被害状況は継続して注視を行い、しかるべき支援が必要となった際には、村としても対応を取れるよう検討を進めさせていただくことをご理解いただきまして、答弁とさせていただきます。